

第13回
エネルギー持続性フォーラム
公開シンポジウム



再生可能エネルギーが拓く
自立分散型社会への道筋

日時 2018年2月27日(火)
13:00 ~ 17:30

会場 丸ビルホール
東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル7階



主催 東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)

共催 昭和シェル石油株式会社 **協力** 三菱地所株式会社

お申し込みはこちらから。参加費は無料です。 <http://www2.ir3s.u-tokyo.ac.jp/esf/symposium.html>

【お問い合わせ】

第13回公開シンポジウム 連絡担当 株式会社プライム・インターナショナル内
Tel : 03-6277-0127 E-mail : ir3s@pco-prime.com

第13回エネルギー持続性フォーラム 公開シンポジウム

再生可能エネルギーが拓く自立分散型社会への道筋

2018年
2月27日(火)
13:00 ~ 17:30
丸ビルホール

温室効果ガス排出量削減、エネルギー自給率向上、技術革新と産業育成、自然資本活用による地域活性化など再生可能エネルギーの活用への期待が高まっています。わが国では、東日本大震災以降本格的に再生可能エネルギー推進政策がとられてきており、2015年7月に決定された『長期エネルギー需給見通し』において、2030年の電力に占める割合は22~24%との見通しが示されました。一方で、再生可能エネルギー賦課金をはじめとする費用膨張問題や系統接続問題といった新たな課題も浮き彫りとなってきています。

これを受けて、2017年6月に閣議決定された『平成28年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書)』では、「エネルギー政策の新たな展開」として、「エネルギーセキュリティの強化」に加え、「環境制約と成長を両立する省エネ・新エネ政策」や「競争活性化と自由化の下での公益的課題への対応」をテーマに、現在展開しているエネルギー政策の大枠について背景や理念が説明されており、今後の展開が期待されることとされています。

本シンポジウムでは、従来の集中型エネルギーシステムから再生可能エネルギーを活用した分散型エネルギーシステムへの移行に必要な技術面および社会経済システムの在り方について考えるとともに、これからのエネルギー社会や産業のあるべき姿について、有識者や専門家による講演とパネルディスカッションを通じて提言します。

プログラム

開会挨拶	13:00~13:05	武内 和彦	
	13:05~13:10	井上 俊幸	
基調講演 1	13:10~13:50	末松 広行	『地球温暖化対策と持続可能な産業振興』
基調講演 2	13:50~14:30	諸富 徹	『電力システム改革と気候変動政策：カーボン・プライシングと再生可能エネルギーの可能性』
基調講演 3	14:30~15:10	河野 博子	『里地里山エネルギー：自立分散への挑戦』
休憩	15:10~15:35		
パネル ディスカッション	15:35~17:25		『再生可能エネルギーが拓く自立分散型社会への道筋』 モデレーター：菊池 康紀 パネリスト：上記講演者 3 名に加え 亀山 康子 『パリ協定下の持続可能な地域づくりのあり方』 梶川 裕矢 『「エネルギーベストミックス」に向けたトランジション・マネジメント』
閉会挨拶	17:25~17:30	濱元 節	

講演者紹介



武内 和彦
Kazuhiko Takeuchi
東京大学国際高等研究所
サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)
機構長・特任教授



井上 俊幸
Toshiyuki Inoue
三菱地所株式会社 開発推進部長



末松 広行
Hiroyuki Suematsu
経済産業省 産業技術環境局長



諸富 徹
Toru Morotomi
京都大学大学院経済学研究科 / 地球環境学学
教授



河野 博子
Hiroko Kono
読売新聞東京本社 編集委員



亀山 康子
Yasuko Kameyama
国立環境研究所社会環境システム研究センター
副センター長



梶川 裕矢
Yuya Kajikawa
東京工業大学環境・社会理工学院 教授



菊池 康紀
Yasunori Kikuchi
東京大学総長室総括プロジェクト機構
「プラチナ社会」総括寄付講座 特任准教授



濱元 節
Misao Hamamoto
昭和シェル石油株式会社
執行役員エネルギーソリューション事業
COO

※講演者及び講演タイトルは予告なく変更となる場合がございます。